



よほろ



舞鶴市立与保呂小学校
学校だより
7月号
令和2年6月30日

思いやりの言葉

6月1日より学校は平常授業となり、子どもたちは毎日元気に登校しています。梅雨に入り、蒸し暑さを感じる日もありますが、エアコンを使いながら換気をし、マスクの着用、隣と間をあけての机の配置など「新しい生活様式」で学校生活を過ごしています。本来なら「1学期のまとめ」にあたる時期ですが、学習活動とともに学級の係活動や児童会の委員会活動もようやく軌道に乗り、今できる形で工夫をして取り組んでいるところです。

さて、舞鶴市では6月を「いじめ対策強化月間」としています。本校でも、いじめの未然防止、及びいじめを許さない学校づくりを目指し、いじめの早期発見・早期対応につなげるとともに、児童のよりよい人間関係づくりに努めるため、取組を進めています。今年は休校期間があったため、1学期を通して行います。全員に実施したいじめアンケートをもとに一人一人と面談し、実態把握を行うとともに、少しでもいじめの可能性があれば、解消に向けて取り組みます。

私からは全校放送で、詩人・金子みすゞの『こだまでしょうか』の詩を紹介しました。



『「遊ぼう」というと「遊ぼう」という。／「馬鹿」というと「馬鹿」という。／「もう遊ばない」というと「遊ばない」という。／そして、あとで／さみしくなって、／「ごめんね」というと「ごめんね」という。／こだまでしょうか、いいえ、誰でも。』

いじめアンケートとは別に、先日、学校生活についてのアンケートを行いました。その中の『相手の気持ちを考えて話す』という質問に「あてはまる・どちらかと言えばあてはまる」と答えた子どもは86.7%でした。約13%の子どもは相手の気持ちをあまり考えずに話しています。また、昨年度のいじめアンケートの結果で一番多かったいじめの内容は『冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる』というものでした。

自分が優しい言葉をかけると相手からも優しい言葉が返ってきます。しかし、自分が相手を傷つける言葉、悲しませる言葉をかけると、やはり同じような言葉が返ってきます。自分の発した言葉を聞いて、相手は喜ぶのか、それとも悲しむのか、多くの人が笑っていても一人でもいやな思いをする人がいれば、それはすてきな言葉ではありません。誰もが気持ちがよくなる言葉、それが本当の優しい言葉だと思います。相手の気持ちを考えて、できるだけ優しい言葉で伝えよう、伝えたいという思いを持つ、「思いやり」の言葉であふれる学校にしたいと考えています。

いじめは決して許されるものではありません。しかし、いつでも、どこでも起こり得るものでもあります。私たち教職員は子どもが発するサインを見逃すことがないように、アンテナを高く張り、児童理解に努めていきます。ご家庭・地域でも、気になることやご心配なことがあれば、学校までご相談ください。保護者・地域の皆様とともに子どもたちが「今日も学校へ来てよかった。明日もまた学校へ来たい。」と思える学校づくりに努めます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

校長 西井 佳寿美
教職員 一同



たのしみは…

6年生が国語科の学習で「たのしみは…」をテーマに短歌を作りました。

自分の好きなことをしている時間やのんびりしている時間のことを書いている子どもが多かったのですが、何人かは右のように、学校生活の中で友達とのかかわりの時間のことを題材にしていました。

『たのしみは／校庭に出て／友達と／ボールけり合い／笑い合う時』

臨時休校明けに、友達との当たり前前の日常の楽しさ・すばらしさを感じてくれているようでうれしく思いました。

